

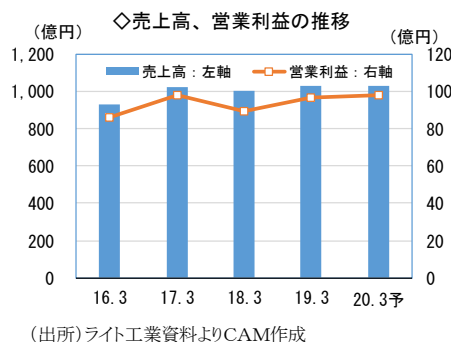
# 企業ニュース ライト工業

(東証1部：1926) <http://www.raito.co.jp/>

作成者：奥村義弘

## 地盤改良、法面保護など専門工事を得意とする

1943年、上條唯雄氏が秋田県花輪町において「上條防水工業所」を創業。トンネルの防水事業を行う。1947年、モルタル急結液を開発し、社名の由来となるライト防水液と命名。1948年、株式会社ライト防水工業所を設立、本社を仙台市に置く。1951年、現社名に変更、本社を東京に移転。特殊技術の開発・導入を積極的に進め、防水、地盤改良、法面保護、環境対策などの専門土木工事を通じて、防災やインフラ整備に貢献してきた。19.3期の工種別受注高構成比は斜面・法面对策36%、基礎・地盤改良36%、補修・補強3%、環境修復2%、一般土木7%、建築14%、その他工事2%。



## 主力の斜面・法面对策、基盤・地盤改良工事が順調

19.3期の連結業績は受注高が1,049億円、前期比7%増、売上高が1,028億円、同3%増、営業利益が97億円、同8%増。受注環境は西日本豪雨の復興工事も寄与し、公共工事が高水準、民間投資は設備投資が増勢で推移した。当社の受注高は主力の斜面・法面对策が378億円、同15%増、基盤・地盤改良が376億円、同16%増となるなど良好な環境が続いた。一方、売上高は東日本大震災の復興需要が一巡し、東北地方に拠点を置く連結子会社の売上高が建築工事を中心に減少したが、土木工事の施工が順調に推移するなど増加した。

20.3期の会社計画は売上高が1,030億円、前期比微増、営業利益が98億円、同1%増。今期の公共工事案件は土砂災害対策などが増加し、良好な環境が維持されよう。

中期的にはオリンピック特需がピークアウトすると共に、東北地方の災害復興案件も収束しつつある。一方、大都市部の再開発事業や国土強靱化に伴うインフラ対策などは堅調に推移しよう。22.3期までの新3カ年中期計画で、ICT（情報通信技術）の利用や業務合理化など生産性向上に取り込む。また海外事業の拡大なども見込む。22.3期の経営数値目標は、売上高1,100億円、営業利益105億円、ROE10%以上、配当性向30%以上を掲げる。

### [株価動向・投資判断]

今期も公共投資では災害対策に焦点が当たる可能性があり、関心を集めやすい企業の一つ。

#### <1926 ライト 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	経常利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
18.3	100,125 (▲2)	8,950 (▲9)	9,209 (▲7)	6,546 (▲4)	124.4	35.00
19.3	102,825 (▲3)	9,702 (▲8)	10,124 (▲10)	6,512 (▲1)	124.4	38.00
20.3 予	103,000 (0)	9,800 (▲1)	10,300 (▲2)	6,800 (▲4)	131.1	40.00



株価 (2019/7/22)	1,439 円
年初来高値 (高値日)	1,582 円 (19/3/12)
同 安値 (安値日)	1,302 円 (19/1/29)
予想 P E R (20.3 予)	11.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,209.5 円
P B R	1.19 倍
予想配当利回り (1株当たり配当金年40.00円)	2.78 %
ROE (19.3)	10.7 %
発行済み株式数	5,780 万株